

令和7年度日光市まちづくり懇話会(足尾地域)概要

日 時:令和 7 年12月18日(木)午後5時 00 分～6時20 分

場 所:日光市役所足尾行政センター会議室

参加者数:○地域側参加者5名

○市側参加者 (市長、副市長、企画総務部長、地域振興部長、他地域振興部職員)

【市長】

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。各地域・地区、9か所をまわる予定で、今日入れて8か所目です。最後の日光地域も含め全て回ることになります。

私が市長に就任して今年が最初の懇話会ということになります。今日はできれば、今までと少し違って、より自治会の皆様方のご意見、現場の状況、お話をどんどん聞かせていただければと考えております。

この前の自治会連合会では、来年度から第3期の総合計画がスタートしますという話、それから女性と若者を主眼にしたまちづくりや、人口減少のスピードをいかに緩やかに抑えるか、などについてお話ししました。

日光市は全国で3番目に広い地域でもあります。今回は、さらにこれまでの市制施行20周年を迎える中で、一体感の醸成や各地域の持っている色や特色、資源をあらためて見つめ直して、それぞれの地域がそれぞれの強みを生かせるまちづくりにしたいという思いを、お伝えしたいと思います。

日本全体として地方創生とうたっているものの、首都東京に一極集中しては地方も、国全体も伸びていかないという前提を私は持っています。日光市としては、今市だけに偏るのではなく、足尾・栗山・日光・藤原といった過疎指定地域も含めて、もう一度掘り起こしをして、それぞれ持っているポテンシャルを生かしていかなければならないと考えています。

この厳しい自治体間競争の中でも、たとえば足尾地域では記念館がオープンしましたし、市も銅山観光整備を進めるなど、引き続き事業を展開していきます。

今日も、今まで積み重ねてきたものをさらに発展させるために、自治会長の皆様方から実際の困りごとや今後のご意見を直接お伺いし、今後の政策や施策の検討に役立てたいと考えています。今ここで直ぐに答えられない案件でも必ず持ち帰り、後日ご返答しますので、ご理解のほどお願いいたします。

それでは、事前アンケートも頂いていますので、順番にそれぞれ10分～15分程度でご発言、ご意見をお話いただき、意見交流をお願いします。

【参加者 A】

市長、副市長、部長の皆さん、ご出席いただき、ありがとうございます。まず双愛病院への対応につきましては迅速な対応をいただき感謝しております。計画に沿って2027年4月には計画が着実に実行されますよう、改めてよろしく申し上げます。

さて、今の足尾の現状についてですが、観光産業の振興は大切ですが、町民の日常生活の維持も観光と同じくらい、むしろそれ以上に重要だと私は感じています。人口減少が毎年100人程度と急速に進んでおり、下手をすると10年後には町が200人程度になってしまう可能性もはらんでいます。このまま減少が続けば自治会活動など各機関が行き詰ってしまうのではないかと、先細りを感じます。

高齢化率は三依が67.3パーセント。栗山が65.2パーセントで、その次3番目に足尾が63.9パーセントと高くなっています。そうした中、市が移送サービス事業をやってくれているのは、ありがたいのですが、

利用対象者の条件を緩和し支援してはいただけないかと思っています。今は市民税非課税世帯ですが、できればその制限を撤廃、あるいは所得 700 万円以下まで対象を広げてほしい。そうすれば移動困難な高齢者がもっと使えるのではないかと思っています。

それと社会福祉協議会の“かもしか号”という買い物支援事業があります。グループホームの車両を借りて月 3 回、水曜や金曜に運行していますが、すかいのグループホームが鬼怒川へ移転するという話があり、車両が使えなくなることを大変心配しています。買い物あるいは中核病院への通院ということで、引き続きワゴン車の車両貸与をお願いします。すかい荘の人たちは引き続き支援を行っていきたいという考えは持っているのですが、こうした支援が無くなれば困ってしまいます。

市営住宅の利用についてですが、今、トロツコ館の運営等で外部からボランティアが来てくれるのですが、特にそういう女性の方が使えるような宿泊施設として使わせたいと思います。規則の改正やほかの地域とのバランスがあり難しいとは思うので。空き家バンク制度はありますが、市営住宅の空室も対象にしたらよろしいのではないかと思います。都会在住で土日や長期休みにのみ来る人達も利用できる形にできればよろしいのではないかと思います。

昔は、夏は涼しいと言われた町ですが、今は夏に来る人も少なくなってきました。しかし、都会在住で田舎暮らしを少し試したいという人も増えているので、市営住宅の運用について是非前向きなご検討をお願いします。

【市長】

移送サービスはやはり病院の移動の部分でしょうか。利用者は増えてくるってことですね。

【参加者 A】

まちづくり協議会の和楽の郷でも移送支援をやっています。日光市民病院まで広げようかということもありますが、まだ今度、試行的にやるということです。

【市長】

すかい荘は、全部移転するのでしょうか。これは持ち帰って検討する案件にさせてもらいたいと思います。市営住宅については、一般質問で外国人介護人材のことがでましたが、国の法制度が変わらないと目的外利用になってしまいます。他の地域でも市営住宅の活用の話は出てきます。我々自治体が国に声を上げていかなければならないのですが、今の段階ではハードルは高い状態です。

双愛病院の交通の整備に関する新しいものは出ていましたか。

【行政センター所長】

担当課でバスの増便はダイヤ編成と合わせて検討していくとのことでした。

【参加者 B】

集まれる場所があることは、避難所にもなりますし、大事なことと思っています。また少子高齢化については、上手く解決できればなと思っています。

和楽の郷がイベントを開いたところ、100 人以上集まって大変盛り上がりました。こうして集まれる場がもっと増えればいいし、高齢者が生きがいをもって住める場所に自治会ごとになっていけばいいと思います。

高齢者には、いい人材がいるはずなので、動きやすいようにしてもらおうと地域としてはいいのかなと思います。農業や運搬など高齢者の中で賄える、引っ張り上げられるシステムができるといいです。

あと、地域学習の一環で地元で大学の学生さんが町に来て、地域づくりに関わってくると高齢者も動きやすくなります。高校生、大学生が地域の魅力や課題をテーマとして調査したりするのも意義あることだと

思います。

【市長】

足尾の資源を考えると、大学生の調査研究には良いところだと思います。

【副市長】

大学からの提案や研究プロジェクトなどの際に、地元からもテーマを挙げていただければ、より継続的な連携提案ができると思います。

【参加者 C】

足尾地区の人が考えているのは、高齢化、交通の便、病院、人口減少です。今回、双愛病院の閉院は大変なこと、今後診療所が新設されるという話ですが、これまで病院としてあったものがなくなるので、入院施設というよりも、診療所でいろいろ事が間に合うような病院にしていただけたらなと考えています。

現時点ではなんとか車を運転できますが、2 年先 3 年先は思うようにいなくなった時の交通手段が大変です。

足尾ではアイス 1 個買えない状況です。“豆腐が欲しい”と言って店に行っても売り切れている、品数が少ない、仕入れが減ればさらに売れなくなるという悪循環だと感じます。高齢者が買い物をできたり、バスの本数が増えるなど利用しやすい状況があればよいと思います。

ガソリンスタンドも 1 軒しかありませんし、閉まるのも早いんです。

また、先日できた古河記念館も見学しましたが、観光客がお昼を食べられる飲食施設が無い。市では何かうまいこと考えてぜひ足尾が少しでも良くなるよう希望しています。

【市長】

診療所整備は現在粛々と進めています。

また、コンビニエンスストアの運営側へ直接話をしたこともあります。交通量・人口規模・売上等で難しいと指摘されています。とはいえ新たな薬局も整備の必要があり、ドラッグストアも含め検討してまいります。

【参加者 D】

全国的に人口の減少と高齢化、解決策は見当たりません。ただ流動人口はその地域に魅力があれば、何とか来るのではないかと考えています。

この地域は、女性の賃金がかかなり低いです。何とか女性の優遇策、何とか大切に扱う策があればよいのではないかと思います。

空き家については、空き家解体の助成制度は市にあります。かなり危険なレベルにならないと適用にならない、そうすると解体費用が大きくなります。もう少し、費用負担がかからない程度の空き家も解体できる制度があってもいいんじゃないかと思います。

地域で、家の解体があったら街灯がぼつんと残ってしまったところがあります。今、街灯の再配置を考えてみたいと調べ始まっています。

最後に足の確保については、観光路線に地域住民が乗せてもらうという方法をとらない限りは難しい状況になると思います。足尾は「観“鉦”」に特化しちゃっていいと思います。銅山観光と、記念館ができて点と点が線になってきました。

【市長】

現在市内で 3 千強の空き家があります。事業者と提携したワンストップの対応とか、いろいろな取り組みをしなければならないのですが、追い付いていないのが現状です。

【参加者 D】

足尾は土地と建物の所有者が違う、登記がされていないなどの問題があります。所有関係がものすごく曖昧など、難しい部分もあります。地元は情報を持っているのですが。

【参加者 E】

渡良瀬地区は、高齢化で平均年齢が 80.8 歳。自治会長をやる人もほとんどいなくなっています。今はみな車を運転しているから何とかなっていますが、免許返納した後は買い物も病院も、どうにもなりません。実際 87 歳の方も、なんとか病院に通っているのがやっとなです。

一番困るのは、懐中電灯や電池が一切買えなくて困る。コンビニの移動販売車のようなものが来られないか、という意見です。

【市長】

セブンイレブンなどの移動販売車は、最寄り店が地域に車を作ってサービス拡大をする仕組みです。ファミマ・ローソンも含め現状を調べさせてください。

【参加者 B】

テレビで、若い人と高齢者のシェアハウスを見ました。市営住宅やアパートで、大学生が安い家賃で住んで高齢者をサポート、イベントも開いている。空き家の多い地域なら導入できるのではないのでしょうか。

【副市長】

実例がいくつかあります。大学と連携して空き物件を学生寮化、役割を決めて多世代交流を実現させているようです。

【参加者 A】

観光資源という点で、足尾は他と比べてどれほど可能性があるのでしょうか。

【副市長】

以前、足尾の持つポテンシャルに驚きました。光と影だけで終わらずに、さらに光があると思っています。

【市長】

群馬側の水沼駅周辺等も温泉施設やサウナ、飲食・キャンプ場へ再整備が進んでいて、足尾・日光と水沼の周遊ルート開発の話もしているところです。

足尾が持っているポテンシャルを民間の力を借りながらトップセールスを続け、投資を呼び込みたいと思います。

今日は貴重な現場の声をたくさん聞かせていただきました。今後の足尾まちづくりに結び付けてまいります。よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。